

それを適用すれば短時間で答えに到達できるような演習問題だけでは、応用力を磨くには不十分であり、試行錯誤する経験が必要であると考え、このような演習問題を含めている。したがって、時間をかけることをいとわず解答を考えて欲しい。なお、解答例は、下記の著者らのホームページで公開している。ただし、それらは解答“例”であり、つねに、別の“論理的”な解答があり得るということを念頭に置いて、解答例を読む必要がある。

(解答例や講義用パワーポイントファイルの所在場所)

<http://www.elect.chuo-u.ac.jp/tsuki/digital.html>

<http://www.ele.kindai.ac.jp/moodle/course/view.php?id=7&edit=off/>

kambe/digital.htm

<http://www.ritsumei.ac.jp/se/re/fukuilab/digital.html>

また、これらのホームページには、講義に利用したパワーポイントも公開しているので、講義でわからなかったところがあれば、再度パワーポイントを見ながら思い出し、考えて欲しい。教員の方々がそのパワーポイントを利用されることも自由である。

著者らは、読者がデジタル集積回路設計に関する自分用の全体像を構築するため、是非とも本書を読破されることを願っている。また、図がほとんど入っておらず、数学的な定義や定理が並んでいる付録を読む際には、自分で説明用の図を作成しつつ読んで欲しい。そのような読書法は、本書だけでなく、これから他の教科を学ぶうえでも有効であろう。なお、各章の目次および各ページのタイトルに*を付けたところは、初読の際には読み飛ばしてもよい箇所である。

2010年2月

著 者